〈孫文2018〉　特別講演会　孫文・宋慶齢を支援した日本の人々

（孫中山・宋慶齢記念地聯席会議開催記念）11月28日（水）　於　兵庫県公館

コーラス

二胡演奏

移情閣友の会受付

2018年11月28日午後、第30回孫中山・宋慶齢記念地聯席会議が神戸で開催されることを記念して「孫文・宋慶齢を支援した日本の人々」をテーマに孫中山記念会、孫文研究会との共催で特別講演会を兵庫県公館にて開催しました。当日は移情閣友の会役員・会員等で受付業務及び会場案内を担当しました。参加者は400名。

安井三吉名誉館長に「孫文と日本―『広東暴徒』『辛亥元勲』『王道覇道』―」と題した講演をしていただきました。続いて、シンポジウムでは「日本の孫文ゆかりのミュージアム紹介」がありました。

講演会に先立って、コーラス同好会が「かけはし舞子移情閣」「茉莉花」「青春舞曲」の3曲を披露。移情閣友の会の活動紹介を挟んで二胡同好会が「台湾メドレー」と「賽馬」の2曲を演奏しました。内外の参加者より中国語の歌や二胡演奏に称賛の声が多数届いております。友の会にとっては、兵庫県公館にて、友の会の活動をアピールする機会をいただき、大変良かったと心から感謝しています。

また、午前中は、第30回孫中山・宋慶齢紀念地聯席会議が日本で初めて開催されました。中国、マレーシア、シンガポール、アメリカ、香港、台湾等の32の関係機関などから77名の代表が出席。孫文の孫の孫穂芳さん、ひ孫の王祖耀さん、大月薫のひ孫宮川祥子さんらも列席。来賓として宮崎滔天のひ孫、宮崎黄石、梅谷庄吉のひ孫、小坂文乃も出席されました。

はじめに、孫文記念館愛新翼館長が開会挨拶、続いて孫中山記念会会長・兵庫県井戸敏三知事がこの会のため、中国出張から帰国され、歓迎の一句を披露されたあと、孫文・宋慶齢関連施設代表による論文報告。各機関の間の相互理解が図られました。午後の特別講演会の後、19時より開催された神仙閣での歓迎祝賀会は120名近い方が参加し、日中の友好が深められました。友の会からは林同福会長、河合純子副会長と後藤みなみ企画運営委員長の3名が招待され、孫文宋慶齢を通じて国際交流することができました。(事務局)

安井三吉名誉館長講演の様子

主催者と孫文ゆかりの来賓達

聯席会議歓迎祝賀会

特別講演会を聞いて

移情閣友の会会員　伊奈　垣圭映（梁佳惠）

兵庫県公館で今秋「孫文2018特別講演会」があると、愛新翼館長よりご案内頂いていました。当日会場は研究者や市民を含め、多くの人で満席状態でした。嬉しいことに、最後列に神戸中華同文学校の中学生が座っていました。

安井三吉先生のご講演は、ゆっくりと語られ理解しやすいものでした。手元に頂いた資料もスライドの写真資料と共に、私のような研究者でない者には孫文と日本との関りを知る手がかりとなりました。交通や通信が今ほど便利でない当時に、孫文は1894年ハワイで最初の革命団体、興中会を結成し、他界する58歳までの30年間、実に精力的に活動していたこと知り感動しました。孫文は「革命尚未成功」と言い残してこの世を去りました。しかし、孫文の働きは中国だけでなく日本をはじめ世界中の人を動かし、そして今でも私たちに影響をもたらしています。その活動を支えた仲間や友人達の存在は大きかったのでしょうが、孫文の情熱と人望は並外れたものだったと感じました。

安井先生が最後に、孫文の「夢」―「天下為公」と「絆」としての孫文について話されました。孫文の「天下為公」の文字は同文学校の講堂（体育館）に掲げられていて、子どもの頃から見上げるたびに不思議と惹きつけられていました。そのような孫文の理想は今日、華僑、行政、経済界、学術界、市民、そして国内外の人々を結びつける「絆」としての役割を担っている。と講演を結ばれました。そして、最後に子ども達が孫文の理想の実現に向けて活躍するようにと思いを語られました。安井先生の言われた「子どもたち」には、年齢に関係なく全ての人が含まれるのではないでしょうか。そういう意味だと考えると、孫文がしてきた革命が今でも続いているのだと思います。

私は日本生まれの華僑5世で、孫文と同郷の広東省中山市出身です。それで今まで親しみを感じていたのですが、この講演が孫文をより理解する機会になりました。感謝です。

「第30回孫中山與宋慶齢紀念地聯席會議」に参加して

中華民国國立國父紀念館館長　梁　永斐

第30回孫中山・宋慶齢紀念地聯席会議　2018.11.28～29　神戸

今年很榮幸參與「第30回孫中山與宋慶齢紀念地聯席會議」，據悉該會議每年聚集來自全球各地的孫、宋紀念機構單位，透過會議的形式，得以有機會推廣館務合作及交換學術訊息，是個非常重要的國際交流平臺。

中山先生的人生裡，有三分之一的時間在海外奔走，前往多個國家尋求支援及認同，尤其到訪日本的次數最多，認識與接觸的日本人士，涵蓋政商界、知識界、軍界及民間友人等近千名，日本之於中山先生，如同是第二個故鄉的存在，尤其是「神戸」，是中山先生首次踏入日本領土之地，也是他最後離開日本返國之處，他也在此發表重要講說《大亞洲主義》，與神戸的淵源深長。

本次大會特別安排赴孫文記念館（移情閣）、南方熊楠記念館及彰顯館等館所參觀，這三個館所分別位處神戸及和歌山兩地，如同依循中山先生當年的腳步，重返舊地，別具意義及紀念性。除了拜讀珍貴的史料展示，以及精讀中山先生訪日等史事之外，深刻體驗到日本在文化資產保存上，有著高度的嚴謹保存措施及施行政策，是值得我方學習及探究的。

2018年9月中旬，甫上任國立國父紀念館館長一職，本館在10月中，與日本產經新聞社、日本產經國際書會，共同舉辦「2018臺灣日本交流書道展」，邀請臺日書法家共同展出近250件作品，是以「藝術」締結文化之緣的年度展覽。11月初，接待三度來訪我館的「和歌山縣議會日臺親善議員聯盟」等人士，我館自2017年起，展示南方熊楠的相關展件。由此，我館與日本的緣分，有著看不見且無法割捨的情感，堅韌地羈絆彼此至今，日後也希望延續中山先生建立的友誼，促使臺日雙方進行多元化的交流形式，並期盼明年與友館伙伴們相見。

（後藤訳）　今年は「第30回の孫中山・宋慶齢紀念地聯席会議」に参加できて非常に光栄です。聞くところによるとこの会議は毎年世界各地から孫、宋記念機関が集い、会議の形式を通して、業務の普及の協力、学術情報を交換するとても重要な国際交流の場である。

孫中山先生の人生の中で、三分の一の時間は海外で駆け回り、多くの国に支援と承認を求めるために奔走していた。特に日本を訪問した回数が最も多く、孫文と交流のある日本人は、政財界、知識界、軍人界と民間の友人等で千名近くいた。日本は孫中山先生にとって2番目の故郷的存在であり、特に「神戸」は中山先生が初めて日本に踏み入れた地であり、また彼が帰国前に日本を離れる最後の場所でもあった。彼がここで重要な《大アジア主義》を発表されたことを考えても、神戸とのつながりは深く長いものである。

今大会では、特別に孫文記念館（移情閣）、南方熊楠記念館、顕彰館等への見学があった。この3つの館は神戸と和歌山両地に位置し、このように中山先生の当時の足どりを辿った旅は、特別な意義と記念性を持つ。貴重な史料の展示を拝読し、孫中山先生の日本訪問等の歴史の出来事のほか、日本の文化資産の保存上の高度かつ厳格な文化保存措置と政策の施行を深く体験できましたことは我ともに学習及び探究に値するものと考えます。

私は2018年9月中旬、国立国父紀念館館長に就任したばかりですが、本館は10月中、日本産経新聞社の日本産経国際書道会と共に「2018台湾と日本書道交流展」を開催。台湾と日本の書家から約250件近くの作品を共同展示し、「芸術」を通して文化の縁を結んだ年度展覧会であった。また、11月初めには、「和歌山県議会日台親善議員連盟」等ご一行が3回目の来訪。当館は2017年から、南方熊楠の関連資料等展示してきた。ゆえに当館と日本の縁は目には見えないが、切り捨てることのできない感情を持っている。今日までお互いに揺るぎのない強固な絆で結ばれているからである。今後は引き続き孫中山先生の作った友情を延ばし続け、台湾と日本双方に多元化の交流形式を行うように促して、そして、今年は、移情閣友の会のみなさまと出会えますように期待しています。

日本の孫文ゆかりのミュージアム紹介

真中は孫穂芳さん

孫文の孫　孫穂芳さんと出会いました

移情閣友の会会員　　磯松　淑恵

日本で初めて神戸で開催された第30回孫中山・宋慶齢紀念地聯席会議に参加させて頂きました。兵庫県公館大会議室の、のじぎくの花をモチーフにした素晴らしいシャンデリアの下での講演は心に残りました。孫文にゆかりある方がたくさん参加されている中でも、真っ赤なスーツ姿のハワイ在住の孫文の孫の孫穂芳（ソンスイファン）さんとお会いでき、握手、写真撮影にも気軽に応じて頂き、私たち神戸シルバーカレッジで孫文研究をしている「とよつねさん」グループ一同は大変感激しました。このご縁に感謝します。